厳粛に執り行われた「廣田弘毅先生顕彰祭」

玄洋

館　報
玄洋128号
平成29年9月1日
発　行
一般社団法人
玄洋社記念館
郵便番号 810-0062
福岡市中央区荒戸三丁目6番36号
西公園ハイツ201号
電話（092）762-2511
FAX（092）762-2502

玄洋社憲則

第一条　皇室ヲ敬戴ス可シ
第二条　本国ヲ愛重ス可シ
第三条　人民ノ権利ヲ固守ス可シ

今号の主な内容

▽平野国臣をしのんで生誕祭を斎行＝2面
▽「福岡の変」140年で「招魂祭」＝3面
▽平成29年度賛助会員芳名録＝4面
▽加藤睦子さん「いそっぽの物語」を出版＝6面

廣田先生顕彰祭を斎行

「精神性の高さ見習うべし」

軍部台頭の混乱した国情の中で組閣の大命を受け、いわゆる東京裁判ではA級戦犯の罪名の下に刑場に消えた悲運の宰相、廣田弘毅先生の顕彰祭が、五月二十日、福岡市中央区城内五の廣田先生の銅像前で福岡県護国神社の田村豊彦宮司を祭主に厳粛に執り行われた。一般社団法人玄洋社記念館の主催。

三十五回目の、この日の顕彰祭には、玄洋社記念館会員はじめ廣田先生の崇敬者、地元政界関係者、福岡市議会の「玄洋社に政治を学ぶ議員の会」（阿部真之助会長）会員ら約四十人が参列した。

祝詞奏上、玉串奉奠の神事で廣田先生を慰霊、顕彰した。

玄洋社記念館の吉村剛太郎理事長は閉式の挨拶で「廣田先生は昭和十一年の二・二六事件の後の混迷の時期に首相に就任された。東京裁判では一切の弁明をなさらず死刑の判決を受けられた。この精神性の高さは現在の政治家が見習うべきものがある」と述べた。

来年は没後70年

廣田先生は、福岡県が生んだ最初の総理大臣。刑死されたのは昭和二十三年だから、来年は没後七十年に当たり、また生誕百四十年の節目の年になる。明治十一年二月十四日、筑前福岡那珂郡鍛冶町（現福岡市中央区天神三丁目十六番）で誕生した。

首相就任の際は、福岡市中が祝賀行事で沸いた。社員から総理大臣を輩出した玄洋社は「大命降下の廣田氏を出すに至って始めて国利民福の伸張を念とする結社の鉄則に活発なる精彩を加えたりというべく真に邦家の為め快哉を禁じ得ない」と機関誌で喜びを表した。

飾らない人柄は、福岡市民に親しまれていた。廣田先生に極刑判決が下されると、福岡市では「助命嘆願署名運動」が展開され、七万二千もの署名が集まったという。

「燃ゆる思い」を伝えられれば…

國臣しのんで生誕祭

あらためて早世惜しむ

幕末、福岡藩が生んだ勤皇の志士、平野国臣の生誕祭が三月二十五日、福岡市中央区今川一丁目の「平野神社」で催された。子孫や崇敬者など約五十人が参列した。

山内勝二郎宮司を祭主に、尊皇攘夷のために時代を駆け抜けた快男児、国臣を顕彰、慰霊した。

神事のあと、会場を近くの鳥飼八幡宮参集殿に移し、直会（なおらい）が開かれた。

食事をいただきながら参列者はこもごも、国臣への思いを語り合った。

挨拶に立った平野神社責任役員の吉村剛太郎氏（一般社団法人玄洋社記念館理事長）は「国臣は三十七歳の若さで亡くなった。生きていれば、日本の近代化のためにまだまだ活躍していただろう」と、改めて早世を惜しんだ。

生誕百八十九年。厳かに斎行された平野国臣生誕祭

国臣の子孫、崇敬者らが集い話が弾んだ直会

国臣の玄孫、大阪府豊中市在住の原國俊氏（68）、福岡県柳川市在住の猛彦氏（65）兄弟も参列された。

國俊氏は、次のように挨拶された。

「歴史を次の人にどうやって伝えていくか。事象や業績など、事実だけならインターネットなどでも手軽に伝えてくれる。しかし、命をかけて日本を守った人の意義を伝えることが大切であり、難しい。私は、国臣が和歌で詠んだ『燃ゆる思い』を伝えられたらいいと、思っている」

また、来年のNHKテレビ大河ドラマ「西郷どん」にも触れた。

「国臣は、錦江湾で入水した勤皇派の僧侶、月照と西郷隆盛を救出したが、さて、国臣役を誰が演じるのか楽しみです」

国臣は文政十一年（一八二八年）平野神社の近くで生まれた。但馬の「生野の変」で捕らえられ京都・六角の牢に送られ「禁門の変」の騒動に乗じて殺害された。

筑前風濤録

頭山満と玄洋社

〈12〉

題字は進藤一馬福岡市長

試練の時代

柳　猛直

これは昭和十八年、頭山満八十九歳（亡くなる前年）の回想談を記録したものだが既に後年の志（こころざし）というものが語られているし何よりも一生を通じて大きな特質であった抜群の記憶力が、その萌芽（ほうが）を見せているという意味で興味ある挿話である。

桜田事変を契機にして時代の急潮は一段と激しさを加えていく。

尊王攘夷の運動が燎原（りょうげん）の火のように広がっていく中で、幕府がとった対応策は安政の大獄に代表される弾圧であり、もっと高度な政略としては朝廷と幕府を結びつける公武合体であった。

その具体的なあらわれが井伊大老のもとで進められていた和宮（かずのみや）の関東降嫁であった。孝明天皇の妹・和宮を将軍家茂の夫人に迎えるという政略結婚である。

井伊大老が暗殺されたあと、その遺志を継いで老中・安藤対馬守、久世大和守らによって実行に移されたのだが和宮の降嫁は屋台骨がゆるぎ出した幕府が朝廷と結ぶことによって危機を乗り切り、あわせて尊攘の志士たちを沈黙させようという、狡猾な策略であると見て志士たちは憤激する。

文久二年（一八六二年）正月、安藤対馬守は坂

「福岡の変」140年

厳粛に「招魂祭」を斎行

平尾霊園・魂の碑

鹿児島から「政府に尋問の筋あり」と第二の明治維新を目指して挙兵した西郷隆盛の「西南戦争」に呼応して、福岡の青年士族が決起した「明治十年福岡の変」で散華した武部小四郎、越知彦四郎ら殉難志士を慰霊、顕彰する「招魂祭」が、さる六月四日、福岡市中央区平和三丁目、平尾霊園の「魂の碑」苑で行われた。

財団法人明道会の主催で志士の遺族、崇敬者、明道会関係者ら約三十人が参列した。

今年は「福岡の変」から百四十年の節目の年に当たることから、厳粛さもひときわ深い祭典となった。

福岡の変から百四十年の今年、ひときわ厳粛に斎行された招魂祭

警固神社（同市中央区天神）の前田智文祢宜を祭主に、祝詞奏上、玉串奉奠などの神事が進められた。

祭典を終えて、明道会の山崎拓理事長は「生命を賭して盟約を履行した殉難志士に敬意を表し、これからも顕彰の祭典を続ける」と挨拶した。

殉難志士は刑死五人、戦死五十一人、獄死四十三人といわれる。

箱田六輔、頭山満、平岡浩太郎、進藤喜平太ら、玄洋社の軸になる人々が「福岡県有志」の名で官許を得、明治二十二年十一月、福岡市の東公園に「千代の松原招魂所」を建立。玄洋社によって招魂祭が始まった。

東公園整備のため、現在地の平尾霊園に移転することになり、昭和三十八年十二月十五日から工事が進められ完成した。

正面に、頭山翁の筆による「魂」の文字を彫った碑が泰然たる姿で立っている。

下門外で尊攘志士に襲われて負傷する。命に別条はなかったが老中職を退いた。

その間にも外人殺傷事件は頻発し外国の圧力は加わってくる。文久元年二月にはロシアの軍艦「ポサードニック」が対馬の浅茅（あそう）湾に入って昼ケ浦（ひるがうら）に兵員を上陸させて居座るという事件もあった。

内憂外患の挟み打ちにあって弱り果てた幕府は有力な諸侯に助力を求めることになる。雄藩の国事周旋がはじまるのである。

文久二年四月、薩摩の島津久光は千余名の藩兵をひきいて京都に入った。久光は藩主ではない。藩主・島津忠義（ただよし）の父であったが薩摩藩の実権を握っていた。

久光の率兵上京を聞いて尊攘志士たちは色めき立ち、続々と京都に集まって来た。久光を尊王攘夷の頭領にかつぎ上げようというのである。

しかし久光には、そんな意思は全くなかった。もともと保守派の攘夷論者ではあったが熱心な公武合体の推進者である。そのことは間もなく起こる寺田屋騒動によって、はっきり示される。

久光と同じ時期に黒田長溥も筑前を出て東上している。この久光と長溥の行動は、どうも連携動作であったと思えるフシがある。

というのは長溥の東上の日程は文久元年十月以来、再々、変更されて、やっと五回目に本ぎまりになったのだが、その間に薩摩からの使者が頻繁に筑前を訪れている。本ぎまりになった東上日程は久光の上京とぴったり合わせた形になっていた。

（この項続く）

※柳　猛直（やなぎ・たけなお）氏＝大正六年―平成九年）地方史研究家、福岡市民文化賞受賞。フクニチ新聞文化部長、編集局長などを歴任。本稿はフクニチ新聞に掲載されたものの再掲です。

賛助会員芳名録

平成29年度

6月30日受け付け分まで（敬称略）

▼法人・団体の部

【六万円】

九星飲料工業㈱　（福岡県糸島市）

【三万円】

警固神社　（福岡市）
九州第一工業㈱　（同）
㈱オー・エー企画　（同）
㈱エー・ケー・シー　（東京都）
㈱アキラ水産　（福岡市）
節信院　（同）
駿和物流㈱　（同）
㈱玄南荘　（同）
社会医療法人原土井病院　（同）
㈱正興電機製作所　（同）
全日本少林拳武徳会　（同）
東海大学　（東京都）
平野神社　（福岡市）

◇

（一社）福岡経営者労働福祉協会　（福岡市）

▼個人の部

【三万円】

上田藤兵衛　（京都市）
吉村剛太郎　（福岡市）
山崎　辰男　（同）

【二万円】

樋口　義則　（福岡県粕屋町）
大江田　信　（太宰府市）
仲原　志平　（福岡市）
妹尾　俊見　（同）

【一万円】

西嶋　俊成　（福岡市）
山田　真　（筑紫野市）
中村　佐枝　（福岡市）
戸川　愛子　（同）
谷本　憲彦　（広島市）
興膳　克彦　（中間市）
秋吉　謙一　（久留米市）
塚田　征二　（福岡市）
的野　泰庸　（同）
平山　康樹　（春日市）
岩崎　成敏　（福岡市）
坂牧　大陸　（同）
生武　治　（同）
時任　英人　（倉敷市）
中本　零時　（東京都）
上杉　清文　（静岡県富士市）
工藤　慶　（西宮市）
片山　悠　（東久留米市）
安川　重臣　（福岡市）
松野尾英彦　（北九州市）
山内勝二郎　（福岡市）
小野　繁　（宗像市）
堺　弥蔵　（福岡市）
濱地　金剛　（東京都）
三木　年史　（徳島市）
横田　進太　（福岡市）
濱地勝太郎　（栃木県下野市）
内藤　武宣　（東京都）
西方　忍　（福岡市）
武田　熙　（さいたま市）
白石　敏彦　（武蔵野市）
田坂　大蔵　（福岡市）
後藤　元生　（同）
室　潔　（東京都）
原　祐一　（福岡市）
庵原　義一　（古賀市）
戸高　有基　（津久見市）
平湯　芳裕　（名古屋市）
西口　英世　（川越市）
頭山晋太郎　（福岡市）
魚谷　哲央　（京都市）
木戸　龍一　（糸島市）
田中　久也　（福岡市）
箱田　満輔　（小平市）
柴田　文雄　（福岡市）
小野　勇夫　（同）
櫻木　嵩士　（徳島県阿南市）
淵上　貫之　（東京都）
土肥　國夫　（福岡市）
国松　誠　（藤沢市）
妹尾　正為　（福岡市）
草野　和子　（松戸市）
高場　康幸　（古賀市）
村井　正隆　（久留米市）
福田　明彦　（福岡市）
濱地　光男　（大府市）
梅本　真央　（福岡市）
西本　潤也　（同）
田川　賢　（茨城県守谷市）
髙橋　宏子　（岡山県赤磐市）
林　登　（福岡市）
大原　毅　（同）
竹若　晴喜　（同）
進藤　勇　（府中市）
西川　眞澄　（福岡市）
樋口　吉朗　（入間市）
吉田　慧子　（福岡市）
青柳　紀明　（同）
縄田　智行　（同）
坂上　英雄　（大阪市）
長岡　聖司　（福岡市）
鬼木　誠　（同）
荒津　茂徳　（愛知県日進市）
大島　泰治　（大野城市）
廣田　明孝　（福岡市）
川﨑　賢冶　（同）
二之湯　智　（京都市）
吉武　義和　（防府市）
田屋　憲男　（横浜市）
小石原　昭　（東京都）
箱田　慎二　（神奈川県寒川町）
渡邉　一馬　（別府市）
鴛海　量良　（立川市）
小柳　政則　（福岡市）
柴田　文彦　（同）
藤田　道子　（同）
池内　公子　（北海道遠軽町）
速開　正澄　（福岡市）
鶴岡美知子　（船橋市）
光安　力　（福岡市）
おばた久弥　（同）
南原　茂　（同）
森　英鷹　（同）
冨永　計久　（同）
川上　晋平　（同）
打越　基安　（同）
阿部真之助　（同）
今林ひであき　（同）
大原弥寿男　（同）
大森　一馬　（同）
津田信太郎　（同）
川上　陽平　（同）
調　崇史　（同）
堤田　寛　（同）
稲員　稔夫　（同）
藤本　顕憲　（同）
笠　康雄　（同）
国分　徳彦　（同）
平畑　雅博　（同）
三角公仁隆　（同）
浜崎　太郎　（同）
鬼塚　昌宏　（同）
川口　浩　（同）
梶原　昂　（同）

お礼の言葉

まず、七月の九州北部における記録的な豪雨で甚大な被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を祈念致します。

さて、四月に、賛助会員の皆様に平成二十九年度の会費納入をお願い致しましたところ、早速、ご協力を賜りました。厚くお礼申し上げます。

当記念館は、本年度も玄洋社諸先覚のご偉業を顕彰し、後世に伝える事業を展開してまいります。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 玄洋社記念館

勤皇二烈士が眠る福岡市・玄界島

震災復興で変わったものは

文化の視点から市博物館がシンポ

福岡市博物館（有馬学館長）は、さる三月十一日、同博物館講堂で「シンポジウム・玄界島が伝えるもの―震災と地域の文化」を開催した。

福岡市の洋上十八キロ。玄界灘に浮かぶ周囲四キロの「玄界島」（福岡市西区）は平成十七年三月二十日の福岡県西方沖地震で家屋の倒壊など壊滅的な被害を受けた。島に住む人は福岡本土への全島避難を余儀なくされたが、三年後、復興を果たした。島は整然と整備されたが、それに伴って、島の人々の暮らしにも変化が生まれている。

シンポジウムは「復興で以前の日常が戻るものと、変わるものがある。そういうものを考えてみたい」（有馬館長のあいさつから）という趣旨で開催された。

島には福岡藩勤王の烈士、堀六郎と齋田要七の墓がある。彼岸や盆には島の人々が供養をしている。二烈士は島の人々の暮らしを見つめてきたといえる。島の変化にも関心を寄せているのではないだろうか。

シンポジウムには約八十人が来場。玄界島の人たちも訪れた。

同博物館学芸課の松村利規・主任学芸主事が「玄界島の年中行事」、大東文化大学経営学部の中野紀和教授が「災害復興と地域資源の活用」の題で基調講演。有馬館長の司会で意見を述べ合った。

その中では「震災前の島の暮らしでは、親類関係などを通じた〝しがらみ〟で島の政治がまとまっていた。これが、復興のための家屋の取り壊しの際などでの反対意見を、親類中で説得するという形で見られた」という話が語られた。

また、震災前、島の坂道に張り巡らされていた「がんぎ段」と呼ばれる狭い石の階段は、島の人々のコミュニケーションの場だったが、復興でなくなり、社会関係が希薄になったのは事実、との意見もあった。

「島は新しい環境で生活が戻ったが、震災がもう一度起きたとき、復旧が十七年と同じようにできるだろうか」という意見も聞かれた。

玄界島復興後をテーマに開かれたシンポジウム

玄界島の納骨堂の一角にある堀六郎と齋田要七の墓

建設コンサルタンツ
建設事業の計画・調査・測量・設計・施工管理
ジーアンドエス・エンジニアリング株式会社
代表取締役会長　花田　勲
代表取締役社長　児玉和久
本　社　福岡市博多区東比恵三丁目二四―九　〒八一二・〇〇〇七　電話（092）481―3100
東京支社　東京都杉並区高円寺南一―二三―一　〒一六六・〇〇〇三　電話（03）5378―5800
営業所　千葉・浦和・神奈川・山口・佐賀・北九州・大分・長崎

福岡鮮魚市場のコア企業!!　21世紀の水産業界を領導するアキラグループ
◇鮮魚仲卸業◇
株式会社　アキラ水産
代表取締役社長　安部泰宏
本　社　福岡市中央区長浜3丁目11―3―711
電話092―711―6601（代表）
関連会社／株式会社「ウトク水産」
AKIRA
Oh, Fresh! Sea foods.

学生会館（学生寮）・単身者向け事業
受託給食・F&B（レストランサービス）事業
株式会社　玄南荘
代表取締役社長　渕上高当
本　社　福岡市中央区荒戸二―三―四一
TEL　〇九二―七一―五―六七一一
FAX　〇九二―七五―一〇六一三
HP　http://gennanso.com/
MAIL　fukuoka@gennanso.com

造園・緑化　自然とコミュニケーション
株式会社　別府梢風園
代表取締役社長　別府壽信
本　社　〒813-0025　福岡市東区青葉一丁目六―五三
TEL　〇九二―六九一―〇六七八（代）
FAX　〇九二―六九一―四五五四
E-mail：info@shoufuen.co.jp

（財）日本医療機能評価機構認定
―開放型病院・臨床研修指定病院―
HARADOI HOSPITAL
原土井病院
理事長　原寛
〒813-8588
福岡市東区青葉6丁目40番8号
☎092-691-3881（代）
http://www.haradoi-hospital.com/

司書公敬仰の念は変わらず

「御別館」の宮若市脇田

にぎやかに「桜の宴」

筑前福岡藩勤皇派の家老、加藤司書公は、勤皇派弾圧事件「乙丑の獄」の犠牲になって、およそ三年後の明治維新を待たず切腹したが、司書公の偉業を慕い敬う人々は今も多い。また、戦国時代の加藤又左衛門重徳に始まる加藤一門の人々の強い結びつきは、今日までも続く。

加藤司書公の進言で築造された黒田藩の隠し城「犬鳴（いぬなき）御別館」跡がある福岡県宮若市脇田地区のお花見の会「桜の宴」が四月一日、脇田公民館で催された。

司書公の偉業の顕彰と地域振興を目的に、観光協会など地元各団体で組織した実行委員会の主催で、今年は六回目。通常は御別館跡で開催するが、天候の関係で公民館での開催になった。

にぎやかに催された「犬鳴御別館―桜の宴」

百人近い人が参加した。司書公の菩提寺、節信院（福岡市博多区御供所町）の前住職夫人、加藤芳子さん（89）も出席された。

同市の和太鼓グループ「司書太鼓」の勇壮な演奏や、文化サークルの華麗な日舞、剣詩舞などが披露され、参加者は酒肴を楽しみながら観賞した。

御別館は、幕府に開国を迫る外国軍艦の、福岡城砲撃に備えたもの。同地区犬鳴山系西山の中腹に、城跡がある。

司書公は、御別館の築造だけでなく、木炭の製造など、地区の産業振興にも理解を示したことから、地元では今も司書公は崇敬され、城跡を観光資源にする運動が展開されている。

米国在住の加藤睦子さん

「いそっぽの物語」を出版

司書公の家系に連なる米国サンフランシスコ在住の作家・画家、加藤睦子さん（74）が「天草本・いそっぽの物語」を出版した。四月二日、福岡市・天神の天神スカイホールで出版記念パーティーが開かれ、本が披露された。

ギリシャの寓話（ぐうわ）作家イソップが著した「イソップ物語」は、日本では、文禄年間、熊本県天草で外人宣教師が日本語を覚えるための教科書として日本語に翻訳され、ラテン文字で日本語を表記した本になった。加藤さんは、室町時代から近畿地方の公家や上流階級の人々の間で使われていた「おじゃる（であるの丁寧な言い方）」言葉でつづられた翻訳本に興味を引かれ、十年をかけて漢字、仮名文の絵本にした。

出版記念パーティーで講演する加藤睦子さん

挿絵も加藤さんが描いた。青磁の絵付けを思わせる藍色で描かれた中世の武士や女性、動物その他は、見る人の心を和ませる魅力を持っている。

A4変形版百二十八ページ。イソップ自身の物語と寓話七十二編が納められている。

加藤さんの夫で芸術家のシオーさん（75）は、有岡城（伊丹市）に幽閉された黒田官兵衛を丁重に扱ったことで知られる加藤家初代・又左衛門重徳の子孫。加藤司書公も同じく子孫。加藤さんは、平成二十五年には又左衛門に始まる加藤家が、戦国の世を生き抜き黒田藩の福岡に安住の地を得るまでを「おじゃる」言葉で描いた小説「急ぎ御文参らせ候～寶樹院殿悲話哀話」を出版しており、「いそっぽの物語」は「おじゃる」言葉シリーズの第二弾となる。

「いそっぽの物語」

出版記念パーティーには、加藤一門の人々をはじめ、出版関係者など約七十人が出席した。

加藤さんは講演で「日本とアメリカを行き来して、ようやく完成した。色の表現に気をつかった」などと述べた。

発行・西日本新聞トップクリエ。二千三百五十円と税。

妹尾理事に「旭日中綬章」

栄誉をたたえ祝賀会開く

お孫さんから花束を受けた妹尾氏と、ふみ子夫人

昨年の秋の叙勲で地方自治功労により「旭日中綬章」を受章された玄洋社記念館理事で元福岡市議会議長、妹尾俊見氏（73）の受賞記念祝賀会が、さる四月七日、福岡市中央区の西鉄グランドホテルで開かれた。

妹尾氏の栄誉をたたえようと、後継市議の堤田寛氏を代表世話人に、かつての後援会各団体の会長らによる発起人会が組織され、妹尾氏の後援者を中心に約百四十人が出席した。

来賓の元自由民主党副総裁、山崎拓氏は「市議を七期二十八年間務められたが、その間、後援会からも、また、福岡市の職員からも信頼を得られた。（連続八期、市議を務めた）父君の憲介氏と共に、妹尾家は福岡市政界の重鎮のお家柄である。夫を支えたふみ子夫人（63）の内助の功にも敬意を表する」と祝辞を述べた。

他の出席者からも「中央区の守り人として今後も頑張って欲しい」などの、妹尾氏の真面目さや、温かい人柄をうかがわせる祝辞が相次いだ。

妹尾氏は「皇居で天皇陛下からねぎらいのお言葉を賜ったとき、いろんな人の顔が目に浮かんだ。皆さんの支えがあったからこその受章だ。妻にも感謝している」と選挙の思い出を交えながら謝辞を述べた。

お孫さんから妹尾氏に花束が贈られ、ご祝儀舞や余興もあり、和やかな雰囲気が会場を包んだ。

福岡だより

「ユネスコ無形文化遺産」登録で

熱気ひとしお博多山笠

博多っ子の血を沸かす櫛田神社（福岡市）の奉納行事「博多祇園山笠」が今年も七月一日から十五日まで、同市の都心部を中心に繰り広げられた。

博多山笠は昨年末、全国三十七件の国指定重要無形民俗文化財とともに「ユネスコ無形文化遺産」に登録されたこともあり、ことしは関係者、観客ともに祭りへの思い入れが強く、熱気が高まった。

祭り期間の一日から十五日まで、繁華街に十三本の華麗な「飾り山笠」が立って見物客の目を楽しませ、十日からは七本の舁（か）き山笠が「おっしょい、おっしょい」の男たちの掛け声とともに走り出し、祭りは静から動へ＝**写真**。そして最終日十五日午前四時五十九分からの「櫛田入り」でクライマックスを迎えた。

博多山笠より前の五月十三、十四日。文化遺産登録された祭りのうち、博多山笠を含む九州の五つの祭りが福岡市に集合。登録記念「九州の祭り山・鉾（ほこ）・屋台特別巡行」を展開した。

「中野正剛先生顕彰祭」を開催

本年の「中野正剛先生顕彰祭」を、次のとおり開催します。どなたでも参加できます。参加希望者は、中野正剛先生顕彰会事務局へ電話またはFAXで早めにお申し込みください。

◇**日　時**　平成29年10月21日（土曜日）午前11時開始

◇**場　所**　鳥飼八幡宮境内「中野正剛先生銅像」前（福岡市中央区今川2丁目1-17）雨天の場合は同宮参集殿

◇**参加費**　式典だけ参加の方は千円、直会（なおらい）にも参加の方は、ほかに3千円。

◇**電　話**　092・762・2511

◇**FAX**　092・762・2502

中野正剛先生顕彰会

玄洋社関係史料の紹介

同時代から見た頭山満 ⑭

ー書と人物ー

石瀧　豊美

第70回

写真1は「秋月町青年団旗」。「忠孝」の二文字は頭山満書。向かって左側を竿にくくることになるので、左から右に読む形になったのであろうか。頭山満が好んで書く言葉である（明治二十三年十月の教育勅語に「臣民克ク忠ニ克ク孝ニ」とある）。秋月町は旧秋月藩城下町で、甘木市を経て現在は朝倉市の一部となった。秋月町は朝倉市下秋月・野鳥・上秋月・長谷山に相当する。秋月町の存続期間は明治二十六年（一八九三）～昭和二十九年（一九五四）。

秋月関係の書籍に掲載されたもの（師岡司加幸さん提供）で、旗を広げている人物は書籍刊行時の公民館長（故人）とのこと。朝倉市で調べてもらったものの、旗が現存するかどうかは不明。破棄することはないだろうから、人知れずどこかに眠っているのだろうと推測する。

写真2は偶然だが、同じ「忠孝」と書かれた扁額（香椎宮所蔵）。香椎宮は旧官幣大社、主祭神は仲哀天皇・神功皇后。写真は安藤政明さん提供。

写真1　秋月町青年団旗

写真2　香椎宮所蔵扁額

これとは別に『魂は消えじ』という本に、香椎宮に寄付された大幅（たいふく）についての記事がある。

『魂は消えじ―恩師頭山満先生の面影―』は下関市の赤間神宮（旧官幣大社、安徳天皇を祀る）の宮司水野久直著（昭和四十四年、一九六九、赤間関書房発行、非売品）。扉に「頭山満先生二十五年祭記念」とある。頭山満は昭和十九年（一九四四）に八十九歳で亡くなっている。

写真3は撮影年が昭和七年と特定されていて、頭山満は七十七歳、水野久直は二十五歳の時である。この本は頭山満に身近に接した水野久直がその思い出を綴ったもので、大変貴重な資料と言える。水野によると、「私は先生（頭山満）の書生となって、身辺に奉仕し、先生のお抱え神職として、神棚一切の御世話を申し上げておりました。」（二五頁）とある。この一文でその親交を知るに十分だろう。

写真3　頭山満と水野久直（昭和7年）

写真4は「祭政一致」「億兆一心」の二行が書かれた額。昭和壬申は昭和七年。「億兆一心」は本紙一一七号・一一九号でふれたように教育勅語の中の言葉だ。正確には「億兆心ヲ一ニシテ（前に引用した忠孝に続く言葉）」。また、明治三年一月三日「宣布大教詔（ふたいきょうのみことのり）」には「祭政一致、億兆同心（億兆心ヲ同ジクシ）」の八文字が見える。額の八文字とは一文字の異同があるが、神職に与えるにふさわしい言葉が選ばれていることがわかる。

この扁額は五尺・八尺の大画仙紙（一枚四円）で、もともとは衝立に仕立てるものであったという。一文字が二尺角（約六〇センチ、実際はこれより少し小さいはずだ）。同席していた末永節のアドバイスで年号が入った。文字の、縦にかすれているところは畳み目が入ったもの。紙が大きすぎて、下敷きなしに畳に直に置いたのであろう。

「この大幅は現在、香椎宮にあります。それにはこんないわれがあるのです。去る昭和三十四年香椎宮（元官幣大社）が勅祭を迎えるに際し、杉村馨宮司の畢生の大事業として大参集所（黒木利三郎氏と設計になるもの）の建設が完成されましたので、同宮司の御苦闘を祝福するため、正面の大掛軸ともならばと…右の大幅を、（大連から終戦後、苦心惨憺して持ち帰えりました。）奉納したのであります。

現在同宮に保存されているこの頭山先生の大筆跡こそ、おそらく日本一の御筆かと今も喜び追懐の情、禁じ難いものがあります。」（三二～三三頁）

写真4　香椎宮に納められた頭山満書の大幅（縦1.5メートル・横2.4メートル）